

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成14年度病害虫発生予察注意報第8号について
平成14年度病害虫発生予察注意報第8号を発売したので送付します。**平成14年度病害虫発生予察注意報第8号**平成14年11月27日
宮崎県**病害虫名 うどんこ病****作物名 ピーマン****1. 発生地域 県下全域****2. 発生程度 やや多い****3. 注意報の根拠**

- 11月中旬の巡回調査でのうどんこ病の発生面積率は90.9%（平年値36.1%）、発病葉率は5.3%（平年値2.3%）で、未確認であった10月の調査後に急激に増加している。
- 一部のほ場では下位葉に留まらず、上位葉への進展がみられる。
- 気象1ヶ月予報によると、期間の前半は平年に比べて曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと予想されている。（鹿児島地方気象台11月15日発表1ヶ月予報）

4. 防除対策

- うどんこ病菌の侵入及び発病の適温は15℃～28℃、最適温度は25℃でやや乾燥した条件が発病に適する。ハウスピーマンの栽培環境はほぼ一致するため、ハウス内をあまり乾燥させないように管理する。病勢が進行すると防除困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- ピーマンのうどんこ病菌は他の作物のうどんこ病菌とは異なり、内部寄生性のため薬剤の効果が現れにくい。そのため、E B I剤など浸透移行性のある剤を防除体系に組み入れる。
- 上位葉への進展が見られるなど病徴の激しいほ場においては、1回散布では防除効果が現れにくいことがあるので、1週間間隔で2回以上の防除を検討する。
- 現在はピーマンうどんこ病に対する薬剤耐性菌の報告はないが、同一薬剤の連用により耐性菌を生じる恐れがあるので、作用性の異なる薬剤を輪番で使用する。
- 防除薬剤については登録のあるものを使用する。（表1）

表1 ピーマンうどんこ病に登録のある農薬一覧

製品名	使用濃度・量	毒性	魚毒性	使用回数(以内)	使用時期 収穫 前日数	注意事項
オリゼート粒剤	5g～10g/株	普	B	1回	定植時	植穴土壌混和
カスミンボルト TM	1,000倍	普	B	5	前日	使用は両薬剤で合計5回まで
カッパ TM -シン水和剤	1,000	普	B	5	前日	
サフ TM ロール乳剤*	1,000	普	A	3	前日	
サンヨール	500	普	B	4	前日	
ジーファイン水和剤	1,000	普	C	6	前日	
ストビ TM -フロアブル	3,000	普	B	3	前日	深達性展着剤の加用は避ける
トップジンM水和剤	1,500～2,000	普	A	-	前日	
トリフィン水和剤*	3,000～5,000	普	B	5	前日	使用は両薬剤で合計5回まで

トリフィンゲット *	50g/400m ³	普	B	5	前日	
ハ-メイト水溶剤	800~1,000	普	A	8	前日	
バ-ルトン水和剤 5 *	1,000~2,000	普	B	4	前日	
ポ-リキシンAL乳剤	500~1,000	普	A	5	7日前	
モ-スタク水和剤	2,000~3,000	普	B	3	前日	
ラ-水和剤 *	4,000~6,000	普	B	4	前日	
ル-ゲン水和剤 *	10,000	普	B	4	前日	
(注1) 平成14年度病害虫・雑草防除等指導指針を改編						
(注2) 製品名に*が付いているものはE B I剤						